

平成 25 年度第 2 回根室市市政モニター会議【記録】

1. 日 時 平成 26 年 2 月 27 日（木）午後 1 時 30 分～午後 3 時
2. 場 所 根室市役所 3 階 大会議室
3. 出席者 【市政モニター】 7 名

【市 側】

市長、総合政策部長、総務部長、市民福祉部長、
水産経済部長、建設水道部長、教育部長、
病院事務長、消防長

【会議進行】総務部長

【司 会】総務課長

4. 開会挨拶（市長）

今年度最後のモニター会議となる。昨年10月に開催させていただいた第1回目の会議での、ご意見やご提言は、市政執行に十分反映させていただくとともに、行政運営の参考とさせていただいた。

平成26年度予算編成にあつては、市中経済の厳しい情勢や人口減少などにより、市税や地方交付税に多くを見込めない一方、公債費の増大に加え、教育環境の整備や公共施設の老朽化など多くの財政需要に伴い、多額な財源不足が見込まれたところである。このため、厳しい財政状況を職員一人ひとりが改めて認識するとともに、これまで以上に、将来展望を見据えつつ、「第9期総合計画」の実効性を、より確実なものとするためのステップとして、様々な状況の変化に柔軟に対応できる財政基盤の確立に向けた取り組みを加速させるよう指示したところであり、最終年次を迎える「根室再興政策プロジェクト」を着実に推進するため「産業の活性化」を軸として、「教育環境の整備」も含めた「子育て関連」事業を重点に置きながら決め細かな予算編成を行ったところである。

こうした中、一般会計の予算規模は、平成21年度以来5年ぶりに前年度を下回る166億2,000万円と、前年度対比2,300万円の減となった。

分野別の「重点施策」としては、

産業分野では、仮称ではありますが「ねむろ水産物普及推進協議会」を設立し、オール根室体制で「ねむろ産水産物」の魅力を発信する新たな事業の取り組みや、空き店舗への出店及びイベント開催に対する支援などにより、商店街を中心とした「まちなか」の活性化を目指す「まちなか賑わい事業」の実施。

保健・福祉分野では、「特定不妊治療費助成事業」や「大人の風しん予防接種助成」、「子ども・子育て支援」に係る新規事業。

教育分野では、厚床中学校の敷地内に校舎を改築する「厚床小学校校舎改築」及び「落石小学校校舎等改修事業」のほか、発達障害を有する児童生徒などに、特別な支援を実施する「特別支援教育事業」な

どを盛り込んだところである。

本日は、新年度予算に関してはもちろん、普段から感じておられる市政全般について、忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたしたい。

5. アンケート集計結果及び平成25年度第1回市政モニター会議に関する検討課題等の説明（広報担当）

6. 以下、会議詳細

会議の回数等について

○モニター

2回では少ない。

●担当者

アンケート結果でも報告したとおり、回数が少ないという意見もあったが、事前に意見要望を募ったほうが良いと思うなどの意見があり、今回は集計結果・検討課題の説明を取り入れた。

アンケート等を踏まえ、今後の会議運営も検討していきたい。

○モニター

会議回数を増やすのもいいが、何かあれば直接市役所を訪れ、担当者に意見を述べるのが一番いいのではないかと。

総合計画に関する市民周知等について

○モニター

総合計画を作成中ということだが、何を行なっているのかが市民には伝わっていない。議会・職員・市民が一体とした関与ができないものか。

●総合政策部長

総合計画作成にあたって、市民から自薦他薦問わず40人の委員を募集し、委員会で進めているが、まだ骨格も固まっていない状態なので、具体的に進捗状況を発表することはできない。

○モニター

市民全体の意見を聞いているのか。

●総合政策部長

市民の3,000人の中から無作為で選び、アンケートを実施した。そのアンケート結果は、委員会の中で噛み砕き検討している。他にも、いつでも意見は受け付けているが、全てを取り入れるのは難しいため、アンケート結果や市長への手紙で書かれてくる意見を参考に、どのような方向がいかを検討している最中である。基本的な案としては、9月いっぱいくらいまでに取りまとめて、市民の皆さんに公表できたらと考えている。

○モニター

3,000人からのアンケート結果などは市民が知ることはできないのか。

●総合政策部長

市ホームページでの公表や新聞などでも一部取り上げてもらい市民周知しているつもりだが、ホームページなどを見ることができない人もいるので、総合政策室を訪問していただければ、資料提供する。

カラスの駆除について

○モニター

金刀比羅神社周辺のカラス（特に早朝と夕方）が大変うるさいので、駆除等をするのができないか。

○市民福祉部長

金刀比羅神社周辺のカラス駆除については、神社の依頼により、年に1～2回毎年行っており、駆除対象は、巣と卵や雛となっている。今回は、うるさいというご指摘であり、成長したカラスが対象と思われる。成長したカラスの駆除はなかなか難しい。方法としては、銃による駆除、罠・かすみ網などが考えられるが、金刀比羅神社の周辺は市街地なため、銃による駆除は難しく、罠を使った駆除は、他の自治体で試みたところがある。しかし、カラスは知能が高いため最初は効果があるが、それ以降は罠に入らないということで、今は行っていないと聞いている。また、かすみ網を用いた駆除については、かすみ網は研究調査等が主な利用方法なため、他の鳥にも影響を及ぼすということでなかなか国から許可が下りない。いずれにしても時期になるとカラス被害・巣を設けたことによる威嚇被害などの報告を毎年受けており、その度に担当者が現場を確認し、巣を対象とした卵や雛の駆除等を行っており、今後も粘り強く続けていくしかないと考えている。

参考までに、平成23年度の駆除件数は135件、24年度は133件、25年度は126件となっている。

拾いごみのごみ収集について

○モニター

雪どけ時期になると、近所にある広場や通学路に多くのごみが落ちている。以前、ごみ収集の方に拾いごみの収集について、問い合わせたところ「市役所に電話してください」と言われた。

拾いごみは、収集車で持って行ってくれないのか。

●市民福祉部長

ゴミ収集車の回収は、それぞれ可燃・資源等の各目的に合わせて曜日を設定し回収している。個人・団体等のボランティアで集めたゴミについては、基本的には様々なゴミが混雑しているため、市が回収するという事になっている。収集車に積載するという事は、処理上各目的に沿って回収するため他のものを回収するということができない。ゴミ拾い等行った場合は、市役所に連絡していただきたい。

学力向上のため、土曜日午前中の勉強会の開催について

○モニター

ゆとり教育で土曜日が休みになったが、私が小学生の頃は行事などもあり楽しかった気がする。現在は、クラスによって授業の進み方が違うので親としては不安になる事もある。

毎週でなく隔週でもいいので、学力向上のため、土曜日の午前中に勉強会を開催することはできないか。

●教育部長

実は、文部科学省で「土曜授業を勧める」という話が出ている。全国的にも8～9%の学校が土曜授業を実施しており、内容としては、学校行事や総合的学習という意味合いが非常に強くなっている。土曜日に行うということで、通常なら代休が月曜日に入るが、土曜授業として行うと代休がなくなる。文部科学省ではこれを勧めているのだが、現在の体制のまま実施するという事になると地域産業との関係や教員体制の問題を解消しなければならない。

今回、授業の進み方等々で不安があるということだが、現在、市学校教育指導主幹が学校訪問を行い、授業の進捗管理を行っている。また、道教委の方でも定期的に確認を行っている。

基礎学力の低下は、大きな問題となっており、3年前から「根室市確かな学力向上に関する取組方針」を設定し、それに基づいて様々な施策を行っている。とりあえずの3年が今年度で終わり、今その検証作業を教員などと一緒に行っており、来年度早々に新たな方針を示すべく作業を進めている。

また、今現在も学校独自で放課後の補習や長期休業中の補習、教育委員会としても夏休みのサポート教室などを行い、なるべく進捗管理や学力向上を目指して地道に努力したいと考えている。

市役所屋上の時計再設置について

○モニター

以前（落成時）は、屋上に時計があったが、現在はない。なぜ付いていないのか、今までの経緯を知りたい。

また、再設置して欲しい。

●総務部長

本庁舎が竣工した昭和48年から、市内民間業者の寄贈より設置していたが、時計の経年劣化や土台の腐食等により落下の危険性が生じたため平成17年に撤去した。新たに時計を設置することに対しては、経費や安全性等を考慮し、計画はしていないが、貴重な意見として受け止めた。

根室に水産関係の学校などの誘致について

○モニター

水産都市根室として、将来の人材育成のために、学校や研修が必要だと思う。

根室はもちろん根室管内の水産業人材育成のために、例えば北海道立漁業研修所や水産高校、場合によっては、水産の短大を根室に新設または誘致をすることはできないか。

●水産経済部長

基幹産業の振興発展のため人材育成は重要と考えているが、現在は、研修を希望する市内の漁業後継者に対し道南の鹿部町にある北海道立漁業研修所で半年間の研修をしており、市がその研修に対して1人10万円の補助をしている。毎年各漁協から1人、4人に対して、補助している。

また、全国的に少子高齢化時代を迎え、根室市内の高校も2校体制の維持が非常に難しくなっていることや、道内でも大学が撤退するなどの問題がおきている中、新設及び誘致は非常に難しく、北海道立漁業研修所のような立派な施設があるので、そこへ行くための補助をするのが現実的な対応ではないかと考えている。

○モニター

水産都市釧路・根室管内で、厚岸にしか水産学校がないのは心もとない。なぜ誘致できないのか。

●総合経済部長

根室市に専門学校誘致ができないかを以前調査したところ、専門学校側は、卒業後の就職先確保・生徒確保の2点が要件となることや、商船に乗る水産なのか、漁業なのか、もし漁業であれば公立の水産学部等が定員割れを起こしている現状である。それに取り組むまでの経営体としての魅力がないと明確な返答をいただいている。

また、根室に造るというメリットがなければ動かない。専門学校側は、道央・道南など札幌近郊に

あり、道内全てを網羅したなかで、生徒が集まるというのが最低限の条件で、誘致は難しいという返答も受けている。

少子化高齢化で大学がつぶれている時代にあり学校誘致は難しいが、市民から意見があると受け止めたい。

廃棄物の処理場の運営について

○モニター

根室市内にあった水産廃棄物処理場が無くなって以降、市内に新しい処理施設ができると聞いているが、どこまで話しが進んでいるのか。

また、できるのであれば家畜糞尿も処理できるような施設を構築できないか。

●水産経済部長

網走市の水産系廃棄物処理会社に対し、花咲港にある破綻した水産系廃棄物処理施設の購入と再稼働の要請を行い、平成24年の春に釧路の裁判所から花咲の旧施設を購入している、その後、平成25年7月に工場敷地である市の土地を購入し、稼働に向けて体制整備をしている。網走の会社としては、原料の安定確保や施設の規模などの見極め等があり、現時点で稼働の時期は不透明であるが、市としても早期稼働を願っており、市としてできる支援はしていきたいと考えている。

また、家畜糞尿などについて、現在、花咲で目指しているのは水産系廃棄物であり、この施設で家畜糞尿などはできない。家畜糞尿の臭い等の質問であれば、今年から、国の「国営かんがい排水事業」が動きだし、今後10年間で110億円前後の事業費が国から入るため、家畜糞尿等きちんと処理をして良い状態で散布できるような施設の構築に向けて動いている。

野鳥の研究家への使用されていない公共施設の利用について

○モニター

根室の野鳥を宣伝していくうえで、根室に来られる野鳥研究家の方たちに長期間過ごすこともあるかと考えられます。そこで、野鳥研究家の方たちに現在使われていない公共施設の使用許可を出すことができないか。

研究家の方たちが根室の野鳥のことを根室の外で報告してもらうことによって、根室の宣伝につながり観光客の方が増えると思う。

●水産経済部長

市は、野鳥観察のために野鳥観察舎（ハイド）を平成23年から順次設置しており、市の設置管理5棟、民間の方の設置管理が1棟あり、多くの野鳥愛好家が利用している。

野鳥観察だけの意味ならば、今設置しているハイドが一番良いと考えているが、別の意図で公共施設を利用したいという声があった際は、施設を管理している担当課と打ち合わせ検討したい。

若い人たちが行く娯楽施設の誘致について

○モニター

根室市で若い人たちが行く場所といえばカラオケ、パチンコ、ダーツ、ボーリング場などですが他に遊ぶ場所を誘致できないのか。(例：映画館、ライブ場など)以前あった根室港を軸とした活気ある市街地の創出案を再検討してみるべきではないか。

●総合政策部長

結論から言うと大変困難だと考えている。過去には、市内にも映画館等あったが、今なくなっていることから、映画館を例にとってみると、現在、映画館がある都市は道内5～6都市しかない。それは、道民の価値観が多様化したことにより、映画ひとつではなく、色々なものへ興味が分散しており、その中で最小公倍数を見つけて何かを誘致するというのは難しい。

また、根室港を軸とした活気ある市街地の創出という案に対しては、市としても考えているが、今の段階で、この案どおりに進むかどうかは不透明だということを頭の片隅においていただきたい。

○モニター

地震防災業務の観点からしたら、街の中心部を丘の上に持ってこなければならぬと考えたので、街のあり方から考えなければならぬと思う。また、街そのものを新しく構築する上で、娯楽施設等がなければ、若い人たちが他都市に流れてしまうので、市民が根室に留まり、他都市からも入ってくるような施設があったほうがいいのでは。

●総合政策部長

まちづくりに関しては、長い目で考え積み上げていかなくてはならないので、今ここで具体的に答えることはできないが、問題は、誘致する事業を誰がやるかということ。市がやるべきだというのなら、意見として受けるが、映画館やライブ会場・パチンコどれも企業や業者が利益を上げられる状態でなければ継続できない。それらの中で、市が音頭をとってそれをできるかという難しい状況にあると考えている。

市立根室病院の産婦人科医の誘致と運営について

○モニター

根室の妊婦の方たちは、子供を出産する時に、釧路赤十字病院や他の医療機関において、入院・出産せざるを得ない状況が続いており、根室の子供の人口減を考えるうえでも、安心して出産できる環境を作って欲しい。

また、市立根室病院内になぜ飲食店を誘致できなかったことが不思議なことと、地下1階の売店も依然より使い勝手が悪く、新聞に関しては全国紙の新聞が全然ありません。せっかく立派な病院を建てたのですから、中身も市民に使いやすく、親しみやすい病院を構築できないものか。

できれば、市立釧路総合病院のように「タリーズコーヒー」などを病院内に誘致できないものか。

●病院事務長

産婦人科（分娩）の件については、平成18年9月から休止しているが、市民からの要望があることは重々承知している。しかし、分娩の再開に関しては、3つの条件が揃わなくてはならない。

一つ目は、産婦人科医師が必要となる。

当院は産婦人科医師が1人となっており、数年前に出産に伴う医療事故が問題となったことや、1人の医師で出産分娩を行うということは、患者さんにとってもリスクがあり医師または医療学会のほうでも難しいということで、当院としても最低もう1人の産婦人科医師の招へいを目指し動いている。具体的には、札幌などで地域の分娩に関心がある医師がいると聞けば、その医師のもとを訪問したり、札幌医科大学などの産婦人科医師に呼びかけをしているが、全国的にも産婦人科医師のなり手が少ないという問題があり、要請確保については苦労している状況となっている。

二つ目は、生後は小児科となるため新生児を診る医師が必要。

平成24年4月から、新生児を診ることができる小児科医師が1人赴任し、現在、小児科は2人体制で診療を行っている。常勤は2人いるが、新生児を診ることができる医師は1名なので、分娩再開にあたっては負担が大きく、バックアップ体制をとる必要があると考えている。

三つ目は、助産師の確保。

当初、当院には5人の助産師が勤務していたが、定年等の問題で現在は2人となっている。募集はしているが、出産分娩をしていない病院に助産師を呼ぶことは難しく、現在助産師には、看護師と同じ業務をしてもらっている。

この3点が揃わなくては産婦人科の出産分娩再開は難しいが、医療大学や国・道などへの働きかけはしており、いつ再開ということは断言できないが、1日も早い再開を目指している。

院内の飲食店・食堂やタリーズコーヒーのようなショップをとということに関して、当初の計画では、病棟150床、市民・患者や医療従事者も利用できる食堂も計画していたが、建設費を賄う上で国や道と協議した結果、病棟150床の見直しや建設後の返済等収支の見直しを検討しなければならず、建設費の圧縮あるいは建設規模の縮小が必要となり、もちろん最優先は診療スペースの確保であり、2・3番目となる売店や食堂などは、見直しや断念せざるを得ない状況となった。

今現在は、1階会計横の販売機前に座って飲食ができる取れるスペースを設けているほか、病棟には面会にいらっしゃった方などが食事を取ることのできるデイルームなどを設けている。

市街地に資格試験や講習を受けることが出来る場所の構築について

○モニター

商店街が寂しくなっております。現在、資格ブームが起こっていますから、資格や免許を取りに行く人が多くなってきている。まずは、講習場などにまちなかサロン恋問や図書館を活用し、その場への行き帰り際に飲食や買い物ができる環境を作ってみてはどうか。

●水産経済部長

現在、市や商店街・関係団体と連携し、中心市街地活性化推進協議会を組織しており、まちなかサロン恋問を活用したまちなか賑わい事業というものを行っている。恋問の利用状況は、平成22年度約8,000人、平成23年度約16,800人、平成24年度27,100人。今年度は利用が少し減っているが、恋問の利用促進または、緑町へ足を運んでもらうための取り組みを行っている。

平成26年度予算においては、中心市街地の空き店舗への出店または新たに改築や商店街が独自に取り組む事業などに対する支援を考えている。

北方領土が返還される事を考えて

○モニター

根室に来た観光客の方たちに上空から島を見せるため、できれば島が返還される前にセスナが飛べるぐらいの飛行場を建設して欲しい。

また、ニホロで日露首脳会談を行うことの要望をしてほしい。

●総務部長

近々、北方領土返還を見据えた根室市の取り組みについて検討するプロジェクトを考えており、セスナ機については、1つの意見として取り上げたい。

首脳会談においては、場所も大切だが「北方領土返還要求原点の地根室」としては、領土交渉が少しでも進むことが大切であり、1日も早い返還のため国の下支えとなり、様々な取り組みを行っていききたい。

賑わい創出について

○モニター

賑わい創出という観点から、味覚観光都市となっているが、一方ではジャズの街根室とも言われている。ジャズの街とは何か考えたとき、駅前の一部の喫茶店・EPJOなどの動きだけなので、市を挙げてジャズを発信してはどうか。具体的には、駅前でジャズを流す・商店街の協力の下街頭放送などでジャズを流すなどジャズを身近に感じられるまちづくりをしてはどうか。富良野市では、全国放送で有名な北の国からのロケ地ということで、北の国からの曲が流れ観光客も富良野を感じられるようになっている。そんな風に先人が築き上げてくれた音楽の文化を広めるには、スピーカーで流すなど簡単にできるのではないかな。そして、賑わいを創出できればと思う。

病院周辺について

○モニター

病院新築にあたり、周辺環境について確認要望したい。

つくし幼稚園と福祉会館の間の道が新築に伴い立派になったが、工事業者が事務所として立てて

いた病院の下のところが、一部埋め立てられているだけで、そのままなのが気になっている。また、以前に駐車場として利用していた病院の一番低いところが、今はかなり荒れている。自家用車が止まっているところに、重機が止まったりして、市道なのか私道なのかわからないが、気になる。両方、春先には整備されると思うがどうなっているのか。

はまなす園近辺もきれいに整備されたが、あの辺に湧き水があり工事の関係で流れが変わったようで、道路などに湧き出てきている。これも春先には改善されると思うが、その辺のところをお願いしたい。また、廃屋が3件くらいあり、非常に危険な状態となっている。所有者が市内にいるかわからないが、道路ぶちなのにそのうち崩落しそうなので、市が撤去してくれないか。

●病院事務長

現在、工事事務所があるところは排雪場所となっているが、雪が解け次第職員駐車場の整備を考えており、工事事務所が立っていたところも手を加えて駐車場にしようと考えている。

病院の一番低い駐車場に関しては、荒れた状況が把握できていないので、確認いたしたい。

●建設水道部長

湧き水に関しては、昨年度、はまなす園の駐車場整備に伴い市で整備した。今出ている部分に関しては、春先に確認したい。廃屋について1件は、元の水道建設部があった市の管理している建物で改修計画もあるが、今すぐという話ではないので少し待ってほしい。ほか2件に関しては、春先確認したい。

病院駐車場の業者が重機を置いたままにしているということだが、その道は、途中まで市道で、途中からは私道になっている。

人材育成等について

○モニター

これからは人材育成が必要だと思う。経費をかけることは難しいが、市民がまちづくりに参画できるようにしてほしい。例えば、いつ起こるかわからない大震災を踏まえ、海岸沿いの町会と高台の町会で協定を結び、何かあったときに協力できるよう働きかける、どこに逃げてどうするかなどきっちり決めて、その中で人材を育てることが必要なのではないかと思う。

港の組織及び整備について

○モニター

港について、歯舞地区は港ごとに会を作り、狭いながらも話し合いを行なっている。根室港や花咲港には会があるのか。見てみると、船が陸に上がっていて、エンジンは取り外してあり壊すだけ

という状態の物が放置されている。今はプラスチック製品なため撤去するしかない。そういう会なり組織を作ってきれいに漁港を利用できるよう、市から漁協などに提案してはどうか。

●水産経済部長

港には、国の管理・道の管理など色々な括りがあり、友知など歯舞方面は漁港となっている。根室港・花咲港は港湾となっており、市の管理となっている。港湾には、期成会のようなものはない。しかし、港湾を整備しようという動きはあるが、資金を募りごみ処理等をするというのはない。ただ、港湾のごみについては組織を作り、定期的に組合で集めてもらい市が回収している。

船舶については、所有者がおらず市でも撤去に悩まされている。所有者があるところについては話をし、徐々に片付いてはいるが、それ以上に廃船が増えているのが現状である。

消防職員の対応について

○モニター

自宅前にある防火層を点検に来た若い消防職員が、妻に「いつもありがとうございます。」と丁寧な挨拶を行ったことに「そのような気持ちで仕事している職員もいるのだ」とすごく感心しました。

是非、そのような職員もいることを市政モニターの場所でも発信して欲しい。

7. 閉会挨拶（市長）

限られた時間ではあったが、貴重な多くの意見をいただき感謝している。今回も各部長が的確な回答をしていたので、私自身は話すことがなかったような気がするが、ただひとつ、専門学校等の誘致については、「根室市再生再興プロジェクト」のなかの目玉事業として3年間くらい研究調査したが、全国的な少子高齢化により、大学もつぶれている時代であり、なかなか実現しなかった。今、北方領土問題も進展しだし、仮に北方領土が返還された場合10万人も20万人にも増えるといわれている。その時がきたらまた状況も変わると思うので、決して諦めておらず全力をあげて実現に向かって行きたい。

北方領土問題をはじめ新たな問題や困難を抱えている、「協働のまちづくり」を基本に、これからもオール根室の更なる連携により、様々な困難を乗り越え、「根室の再生・再興」に向け、加速的に「前進」し、根室市にとって「実り多い飛躍の年」となるよう、努力していく。モニター会議が2回では足りないという話があったが、他のモニターさんから意見があったとおり、疑問がある場合は各部署へ問い合わせたい。本日は大変忙しいなか参加いただき真にありがとうございました。